

経済学科 卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

経済学部経済学科は、基盤教育による基盤力に加え、経済学に関する専門教育を通して、以下の能力を有すると認めた者に学士(経済学)の学位を授与します。

■ 豊かな「知識」

専門分野である経済学の基礎知識を修得し、それを基にした応用知識を体系的・総合的に身につけている。

■ 知識を活用できる「技能」

経済学の専門知識を活かして、問題解決に向けて、必要とされる情報を自ら収集するとともに、「経済モデル」の展開と「データ」の分析を行うスキルを身につけている。

■ 次代を切り開く「思考・判断・表現力」

経済学の知識と分析スキルにより、社会・経済の動向を論理的に考察し、専門的見地から自身の考えや判断を表現することができる。

■ 組織や社会の活動を促進する「コミュニケーション力」

経済学の学修を通じて、組織やチームのメンバーと積極的な議論をしながら、協働して経済や社会の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

■ 社会で生きる「自律的行動力」

経済学の応用分野や地域経済に関する学修を通して、社会・経済への関心を持ち続け、社会の発展に向けて取り組む意欲を有している。

～その基盤力として、基盤教育で次の力を身につけます～

- ・地域・環境・世界(地球)の分野を中心として、社会で生きていくための基盤となる幅広い知識を有している。
- ・英語などの基礎的運用能力、情報リテラシー、資料等を読み解く技能を身につけている。
- ・多様なものの見方、考え方、価値観などを理解し、思考・判断することができる。
- ・個人の異なる生き方や価値観を理解し、社会と調和し、組織や社会の活動を促進することができる。
- ・他者との関わりの中で自己を律し、自己のキャリア形成に向けて継続して学び、公共性、倫理性を持って行動できる。

※ 基盤力の詳細は基盤教育センターのページを参照

経済学科 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

経済学部経済学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を実現するために、以下のとおり教育課程を編成し、実施します。

教育課程の編成

（編成の方針）

- 1 経済学科では、1年次から4年にかけて経済学に関する基礎から応用に至る知識及び経済分析など経済特有のスキルを修得するとともに、社会・経済への関心を持ち続け、社会の発展に向けて取り組む姿勢を身につけることを目指して、順次性、体系性のある教育課程を編成する。
- 2 教育課程には、社会・経済の動向を論理的に考察し、コミュニケーション力を育成しつつ、自身の考えや判断を表現できるよう、1年次の入門演習から4年次の卒業研究に至るまで演習科目を配置する。
- 3 以上の専門教育科目に加え、社会で生きていくための基盤力を育成する基盤教育科目をもって経済学科の教育課程を編成する。

（教育課程の構成）

※()は卒業に必要な最低単位数で、卒業要件単位数 124 単位の内訳

経済学科の教育課程は、編成の方針に基づき、専門教育科目(84)と基盤教育科目(40)で構成する。

専門教育科目は、「必修科目」「選択科目 A」「選択科目 B」の3つの科目群から成り、順次的、体系的に編成する。各科目群の編成は次のとおりとする。

- 1 「必修科目」(36)は、経済学の学修に必須の「専門基礎科目」群(1、2年次配置)、思考・判断・表現力、コミュニケーション力の修得に必要な「演習科目」群(1年次から4年次配置)、そして、キャリア意識の醸成のための「キャリア科目」(2年次配置)からなる。
- 2 「選択科目 A」(40)は、の基礎知識、基本知識とそれらに対応するスキル、そして高度な専門知識とスキルを修得するために必要なコアとなる重要科目群であり、2、3年次に配置する。また、「応用経済学系科目」(20)と「地域・産業学系科目」(20)に区分されており、それぞれ、経済学の専門的な各応用分野と歴史、地域経済、経営・会計学を学習できるよう授業科目を配置する。
- 3 「選択科目 B」(8)は、経済学をより幅広い視点から理解するために設定されている科目群であり、経営系、会計系、情報科学系、法学系、政策科学系、英語スキル系の科目群を、2、3年次を中心に配置する。

教育の内容・方法

- ・ 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより、又はこれらの併用により行う。
- ・ 学生が主体的に学び、協働して課題解決に取り組むとともに、学習意欲・関心を高め、生涯にわたって学び続ける力を養うため、課題解決型学習(PBL)、グループディスカッション、グループ

ワーク、プレゼンテーションなど能動的学習(アクティブ・ラーニング)の手法を授業形態に応じて効果的に取り入れる。

- ・ 学生の実践力の育成とキャリア意識の醸成のために企業等でのインターンシップ(就業体験)を単位化する。
- ・ 予習・復習等、授業時間外の学修について、学修行動調査などによる調査・把握を行いながら、シラバスへの内容記載や授業での喚起等により、適切な学修時間の確保を促す。
- ・ 単位の実質化を図るため、履修登録単位数の上限を各学期 26 単位とする。

学修成果の評価

- ・ 授業科目の成績評価は、試験、受講態度、並びにレポートや課題、ディスカッション、プレゼンテーションへの取組状況や成果などによって厳格に判定する。成績が一定の水準に達したと認めた場合に、所定の単位を認定する。
- ・ 3年次に進級するためには、2年次終了までにおいて、所定の科目を含めた 60 単位、卒業の要件は、所定の科目を含めた 124 単位以上の修得を必要とする。
- ・ 各授業科目の成績を基礎とした総合的な学業成績として、累積 GPA を算出し、成績優秀者表彰や早期卒業、留学対象者の選定などに用い、学修意欲の向上を図る。
- ・ 学生への授業評価・学修行動調査等を実施し、個別科目での学生の理解度や各講義・授業への要望をはじめ、学修達成状況などを把握し、その結果を授業や教育課程の改善に役立てる。

経済学科 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

経済学部経済学科は、次のような人を求めます。

（求める学生像）

○経済活動に広く関心を持ち、その仕組みを理解したい人

○大学で専門分野として学んだ経済学の知識や分析手法を仕事に活かし、社会に貢献したい人

（求める能力、入学者選抜における重点評価項目） ※特に評価する項目に「○」をつけています。

		知識・技能	思考力・判断力・表現力等の能力	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
求める能力		・経済学を学ぶために必要な幅広い基礎的な学力を持っている。 ・文章を読み解き、考えをまとめるために必要な日本語と外国語の語学力を身につけている。 ・経済社会の歴史や仕組みを理解するために必要な知識と数理的素養を持っている。	・経済問題を論理的に思考・判断し、解決するために必要な数学の能力を身につけている。 ・文章を読み、その内容を分かりやすく的確に伝えることができる日本語と外国語の表現力を持っている。	・様々な活動において他者と協働し、コミュニケーションを取りながら、主体的に行動する意欲および姿勢を持っている。 ・自分のキャリアビジョンが明確で、資格取得など、その実現に向けて努力する姿勢を持っている。
一般選抜 （前期日程）	大学入学共通テスト	○		
	個別学力検査 英語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ）又は数学（数Ⅰ、数Ⅱ、数A、数B）	○	○	
一般選抜 （後期日程）	大学入学共通テスト	○		
	個別学力検査 小論文		○	
学校推薦型選抜（全国推薦、商業科・総合学科推薦、 地域推薦、 ）	基礎学力テスト等		○	
	推薦書、調査書、 取得資格等申告書			○
帰国子女学生特別選抜	個別学力検査等		○	
	面接			○
外国人留学生特別選抜	日本留学試験	○		
	個別学力検査等		○	
	面接			○
編入学	個別学力検査等	○		
	面接 （入学希望理由書）			○